令和６年３月６日（水）　栃木教区・布教師会共催布教研修会　　於ホテルニューイタヤ

『法華経』に説かれる法華経　　―「化城喩品」に注目してー

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　信越教区　本覚院　　小林順彦

**◎「人は仏教に何を期待し、僧侶はそれにどのように応えればいいのか？」**

**１，何気ない疑問の大事さ（気付きの大切さ）**

【心に残る恩師の言葉の一例】

①故塩入良道先生

学生時代、居酒屋でご一緒した時「いいか小林、天台は酒みたいなもんなんだ」

と言われ？？

②多田孝文先生

学生時代、信徒に対し普段どのように「阿弥陀如来」の事や極楽浄土を説明しているかを問われ、辞書に書いてあるような答えをしたところ「お前、天台の坊主じゃないのか？」と言われ？？

**２，『法華経』に説かれる法華経**

【質問】　皆さんは、どうやって説明していますか？

**Ａ　法華経は『法華経』だけなのか？**

**→なぜ『法華経』の中で法華経を説くと言うのか？（疑問その①）**

①「仏滅度の後、妙光菩薩、妙法蓮華経を持ちて、八十小劫を満てて、人の為に

演説す。日月燈明仏の八子、皆な妙光を師と為す。妙光は教化して、其れをして阿耨多羅三藐三菩提に堅固ならしむ。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　『妙法蓮華経』「序品」大正蔵九・四ｂ

②「仏、是の経を説きたもうこと、八千劫に於いて、未だ曽て休廃したまわず」

　　　　　　　　　　　　　　　『妙法蓮華経』「化城喩品」大正蔵九・二五ｂ

③「文殊師利の言わく、我れ海中に於いて、唯だ常に妙法華経を宣説す」

　　　　　　　　　　　　　　　『妙法蓮華経』「提婆達多品」大正蔵九・三五ｂ

**Ｂ　五種法師は五種だけなのか？**

　　→**『法華経』を説いている最中に「法華経の乃至一句に於いても、受持し読、**

**誦し、解説し、書写し、云々」とはどういうことなのだろう？（疑問その②）**

「薬王、若し人有りて、『何等の衆生か、未来世に於いて当に作仏することを得べき』と問わば、応に示すべし、『是の諸人等、未来世に於いて必ず作仏することを得ん』と。何を以ての故に、①若し善男子、善女人、法華経の乃至一句に於いても、**受持**し、**読**、**誦**し、**解説**し、**書写**し、（中略）当に知るべし、此の人は是れ大菩薩の、阿耨多羅三藐三菩提を成就して、衆生を哀愍して、願いて此の間に生まれ、②広く妙法華経を演べ分別するなり。何に況んや尽くして能く受持し、種々に供養せん者をや。薬王、当んに知るべし、是の人は、自ら清浄の業報を捨てて、我が滅度の後に於いて、衆生を愍むが故に、悪世に生まれて広く此の経を演ぶるなり。③若

し善男子、善女人、我が滅度の後に、能く竊かに一人の為めに法華経の乃至一句を説かん。当に知るべし、是の人は則ち**如来の使**なり。如来に遣わされて、**如来の事**を行ずるなり。」　　　　　　　　　『妙法蓮華経』「法師品」大正蔵九・三〇ｃ

如来の使…説法者は仏様の使い。仏様の智慧によって真理を説く行者のこと。

如来の事…如来の智慧によって真理を行じ、衆生を教化すること。

**３，阿弥陀如来は極楽で何を説法されているのか？（疑問その③）我々は浄土の事をどのように説明しているか**

「其の仏（大通智勝仏）、未だ出家したまわざりし時に、十六の有り。（中略）爾の時に十六の王子、皆な童子を以て、出家して沙弥と為りぬ。所根通利にして、智慧明了なり。已に曽て百千万億の諸仏に供養し、浄く梵行を修して、阿耨多羅三藐三菩提を求む。（中略）是の時に十六の菩薩沙弥、仏の室に入りて、寂然として禅定したもうを知りて、①各おの法座に昇りて、亦た八万四千劫に於いて、四部の衆の為めに、広く妙法華経を説き分別す。一一に皆な六百万億那由多恒河沙等の衆生を度し、**示教利喜**して、阿耨多羅三藐三菩提の心を発さしむ。（中略）②是の十六の菩薩は、常に楽いて是の妙法蓮華経を説く。（中略）彼の仏の弟子の十六の沙弥、今皆な阿耨多羅三藐三菩提を得て、十方の国土に於いて、現在に法を説きたもう。（中略）③西方に二仏有り、一をば阿弥陀と名づけ、二をば度一切世間苦悩と名づく」　　　　　　　　　　『妙法蓮華経』「化城喩品」大正蔵九・二二ｃ～二五ｃ

**４，伝教大師が説く三種の法華教**

「其れ〈於一仏乗〉とは**根本**の法華教なり。〈分別説三〉とは**隠密**の法華教なり。〈唯一仏乗〉とは**顕説**の法華教なり。妙法華の外に更に一句の経無く、唯一乗の外

に更に余乗等無し。**機に隨いて千名有り、根に隨いて浅深有り**」

　　　　　　　　　　　『守護国界章』上之上　伝教大師全集巻二・一七一頁

「釈尊の心の中にある本当のお悟りは、経文という文字や言葉がなくとも、お心の中に明々と輝いている。それが根本法華経である。………長い間やさしく説法し続けられたのが、すべて経といわれるものである。………他の名前で呼んでいるので、これを隠密法華経という。今の妙法蓮華経八巻は、機縁ことごとく熟して、お釈迦さまの悟りの心の根本法華経を、そのまま言葉で表現されたもので、それ故**顕説法華経**とでもいうべきものである。」〈大久保良順『法華経の教え』春秋社　八頁」〉

①仏は「正法」または「妙法」を悟って、はじめて仏となる。あらゆる仏は各々の特性に従って、自分の悟ったサッダルマを説く。それは意楽としての理法という側面もあるが、何れの妙法も、諸仏が修行によって体得した智慧であり境地である。→**根本法華教**

②そのサッダルマがどのように説かれるかは、その時の聴衆の機根や時代状況によって異なる。つまり、悟った真理が仏において主体化され、慈悲と智慧によって（方便力）説かれたものすべてが法華経ということになる。→**隠密法華教**

③そのサッダルマを、方便力を用いて説いたものを纏めた結晶が、現今の『法華経』である。→**顕説法華教**

◎「介爾も言有れば皆な是れ**権**なり」（『文句』「釈方便品」大正蔵三四・三七ａ）

**【右の①②③を踏まえて】**

天台大師の法華経観（『法華玄義』大正蔵三三・八〇〇ｂ）

「凡そ此の（法華以前の）諸経は皆是れ他意にし、他をして益を得せしむ。仏意を譚ぜず、意趣何くにかかん。今経は爾らず。是の法門の網目をかけて、大小の観法・十力・無畏、種々の（修行法）は皆な論ぜざる所なり。前の経に已に説くが為の故なり。（中略）當に知るべし、此の経は唯だ如来設教の大綱を論じて、微細の網目を委しくせざることを」

「設教の大綱」を理解させるために、譬喩が多用される。→「**法華七喩**」

「規矩」･「網目」を論じない。→**一仏乗**に対する**信**と**求索**の強調

★平田篤胤の『法華経』批判

「みな能書ばかりで、肝心の丸薬がありやせぬもの云々」→法華経無内容説

「智者ではなくて愚者大師とも云うべきものでござる」→天台大師への批判

　　　　　　　　　　　　　　　長井真琴校注『出定笑語』二五〇～二五一頁

→**『法華経』は釈尊の真意がどこにあるのかという根本的な問題を明らかにしようとした**のであり、その意味からすれば、こまごまとした仏教思想を説いていないのは、むしろ当然である。

釈尊の悟った真理は単なる客体的な観念論のみではなく、釈尊の身心を通して様々に顕される。智慧と慈悲に裏打ちされた【**方便力**】それらの言葉の結晶が、いま現在私たちが読んでいる経典としての『法華経』なのである。

**５，我々は如何に考え、如何に人と接すればいいのか？**

★【悦可衆心】と【示教利喜】

①〈悦可衆心〉

「舎利弗、如来は能く種種に分別して巧みに諸法を説き、**言辞柔軟にして、衆の心を悦可す**。」　　　　　　　　　　　　『妙法蓮華経』「方便品」大正蔵九・五ｃ

◎「一切法**実**とは、文に如來巧に諸法を説いて**衆心を悦可す**というが如し、**衆心は入実を以て悦となす**」　　　『法華文句』「釈方便品」大正蔵三四・三七ａ～ｂ

②〈示教利喜〉…項目３参照

示…法を示すこと。

教…教え導くこと。　　　　　　　　　　　　これを

利…教えを垂れて利益を得させること。　　　「説法の四事」と言う。

喜…讃歎して喜ばせること。

**６，この心持ちで応える人は、実は仏に護られている。**

「今日の如来も当に大乗教の**妙法蓮華**、**教菩薩法**、**仏所護念**と名づくるを説きたもうべし」　　　　　　　　　　　　　『妙法蓮華経』「序品」大正蔵九・四ｂ

**７，なぜ全ての衆生が成仏できるのなら、『法華経』以前に三乗を説いたのか？**

**（疑問その④）**

それぞれが持つ能力を成長させるための方便であり、真実は一乗しか存在しない。→**開三顕一**

①『法華経』は教菩薩法であるから、真実には一仏乗しかないことを信じない者は

菩薩ではない。

②菩薩の自覚のある者が、仏の最高の正しい悟りを**さらに追求しなければ**、それは真の菩薩ではない。→五千人起去

菩薩であれば、一仏乗を説く『法華経』を必ず信じる。

**★最初のテーマと、先生方が言いたかったことの自分なりの解釈**

**「僧侶はどのように応えればいいのか？」**

**◎増上慢を取り除かなければならない＝柔らかい心＝聞く耳を持つ＝謙虚＝信心**

**下座行の大切さ　　　　　　（気付かなければ通り過ぎてしまう）**

**何事もワンチャンス！**

**気付きの大切さ【項目１】**

**気働きができるか？**

**自分の持ち物に気付けるか？**